



理事長就任 10年を迎えて

理事長 寶子丸 周吾

前理事長・繩手建氏が2014年6月6日に逝去され、後任として2014年9月1日より「ゼノ」少年牧場の理事長として大任を拝することとなって10年の月日を重ねました。この10年間、私なりに取り組んできたことを振り返り、今後につなげていきたいと思いま

す。
2014年9月に理事長に就任し、まず取り組んだことが人財確保のための組織改革とハートフルフォーラム、子どもの未来応援プロジェクトとしての「未来も笑おうプロジェクト」、そして財政健全化のための取り組みとして、積立金の本部一括管理体制と2040年までの設備投資に係る資金の中長期計画の策定です。

人財確保については、繩手前理事長のお別れの会で弔辞を述べた時、多くの参列者が駆けつけてくださる中、『「ゼノ」少年牧場が限

りなく前進し、歩みを止めることなく、誇りをもって、社会保障という地域や国を支える社会福祉法人として歩み続けることのできる経営基盤を作り上げていきます。』と豪語してしまったことから、内心何から手を付ければよいか悩んで、取り組み始めたのが「人財の確保」でした。

経営基盤という言葉を使ってしまったので、人・モノ・金について、持続可能な仕組みを作る必要があると考え、社会福祉という仕事において一番に重要な力を握っているのは、「優秀な人財」が組織の中で持続的に活躍できていることが大切であると考えたからです。手探りの中で取り組んだのが、大学回りと現地説明会の開催と組織改革でした。10年前は、計画的に人財を確保していくために必要な作戦を練るための部署や手法、ツール等、全て0からのスタ

ートであったと記憶しています。まず大学回りをして、神戸や大阪・京都等、学生の集まる地域に足を運び、その地で単独の就職説明会等を企画してみたり、東京まで足を運んで就職イベントに参加する等に取り組みました。0からのスタートであったため、イベントを開催しても参加してくれる学生は0人という悲惨な結果になってしまい、関係者に迷惑をかけてしまった取り組みも多くありました。組織改革では、「人財企画室」という部署を立ち上げ、責任者を配置し、若手の者も一緒に人財確保について取り組めるようにしました。近隣の社会福祉法人にも呼びかけを行い、山口県や九州まで足を運んで学生の獲得に力を注ぎました。

そして、もう一つ取り組んだのが、障がいのある人が活躍している姿を世の中の多くの人に見てもらい、障がいのある人に対する理解を深め、偏見をなくしていく活動としての『ハートフルフォーラム』の開催でした。

第1回目は、東田直樹さんとお母様を招いて講演会を企画しました。我々、障がい福祉の分野